

# 第3章 課題の整理

## 3-1 人口の将来見通しに関する分析

### 3-1-1 地域別の将来人口

●市街地における人口の集積度合いが向上する見込み。

[データ解説]

- ・2040年（平成52年）は、主に「中条地区の用途地域内とその周辺」に人口が集積していると予想され、今以上に市街地における人口の集積度合いが高まると予想されます。

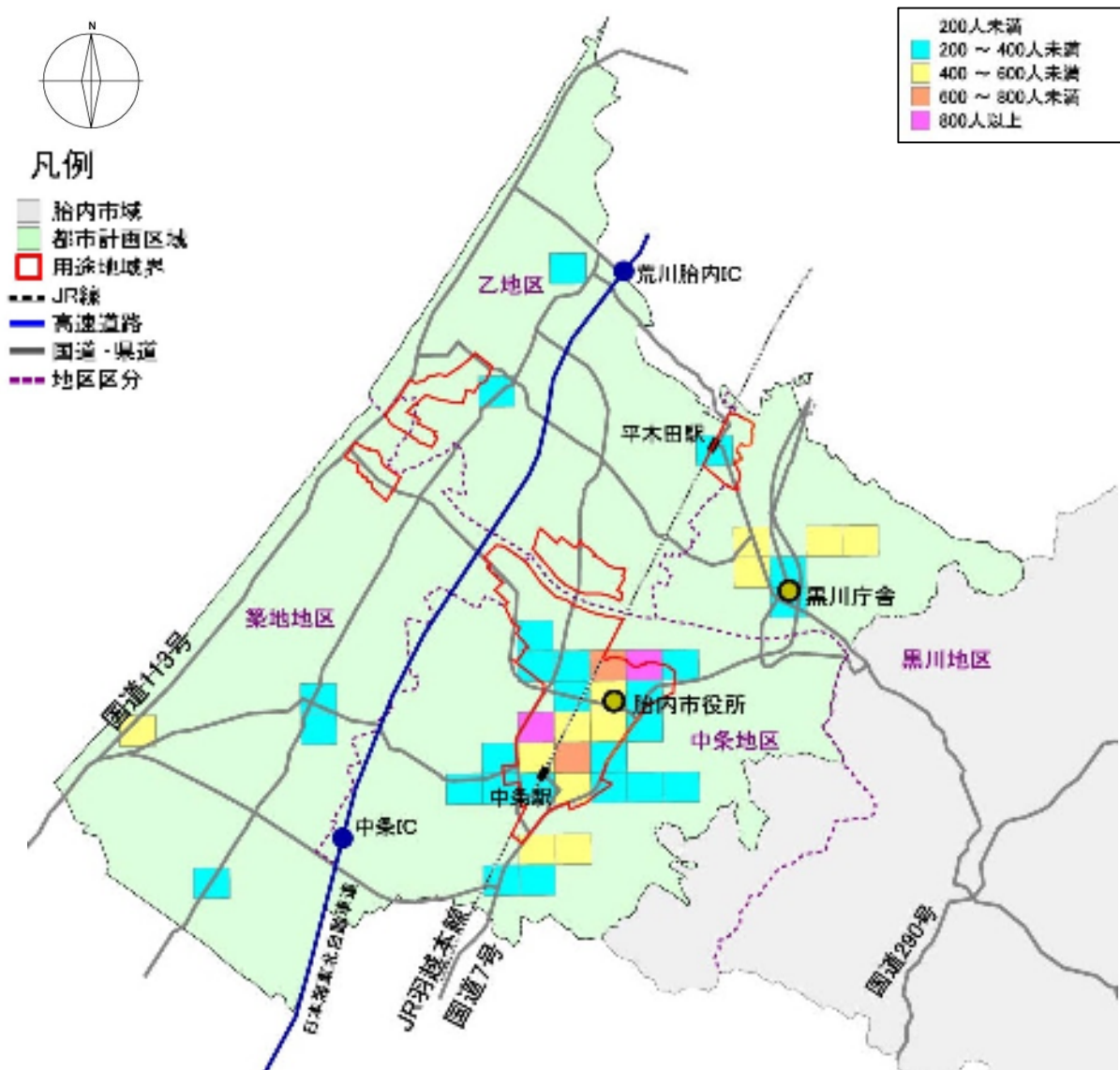


図 3-1-1 2040年（平成52年）の地域別将来人口（500mメッシュ）

※）国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した方法を用いて地域別の数値を算出。

### 3-1-2 地域別の人口増減

#### ●市街地部の人口が大幅に減少の見込み。

[データ解説]

- ・2040年（平成52年）にかけて人口が増加すると予想されるのは、土地区画整理事業・開発行為がなされた一部に限られ、ほぼ全ての地区で人口が減少する予想となっています。
- ・特に、現時点で人口の集積度合いの高い「中条地区の用途地域内とその周辺」では、今後大幅な減少が予測される地区が多く見られます。

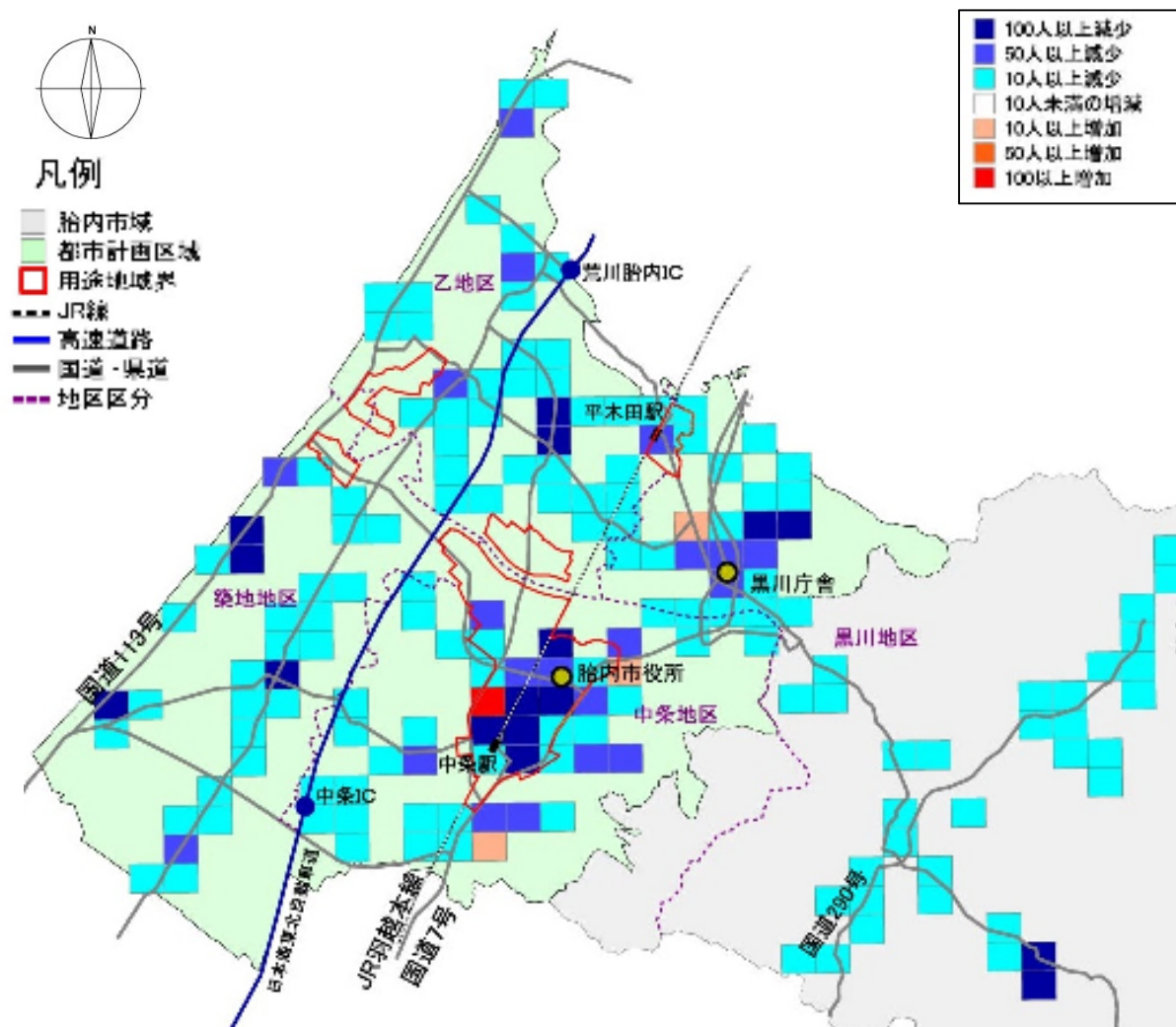


図3-1-2 2010年（平成22年） - 2040年（平成52年）の地域別人口増減（500mメッシュ）  
※）国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した方法を用いて地域別の数値を算出。

### 3-1-3 地域別の将来人口密度

#### ●人口の低密度化がさらに進行する見込み。

##### [データ解説]

- ・将来の人口密度は、「中条地区の用途地域内」で周辺よりも比較的人口密度が高くなると予想されます。
- ・2010年（平成22年）時点で見られた30人/ha以上に該当する地区は、将来なくなると予想されるなど、人口の低密度化がさらに進行すると予想されます。

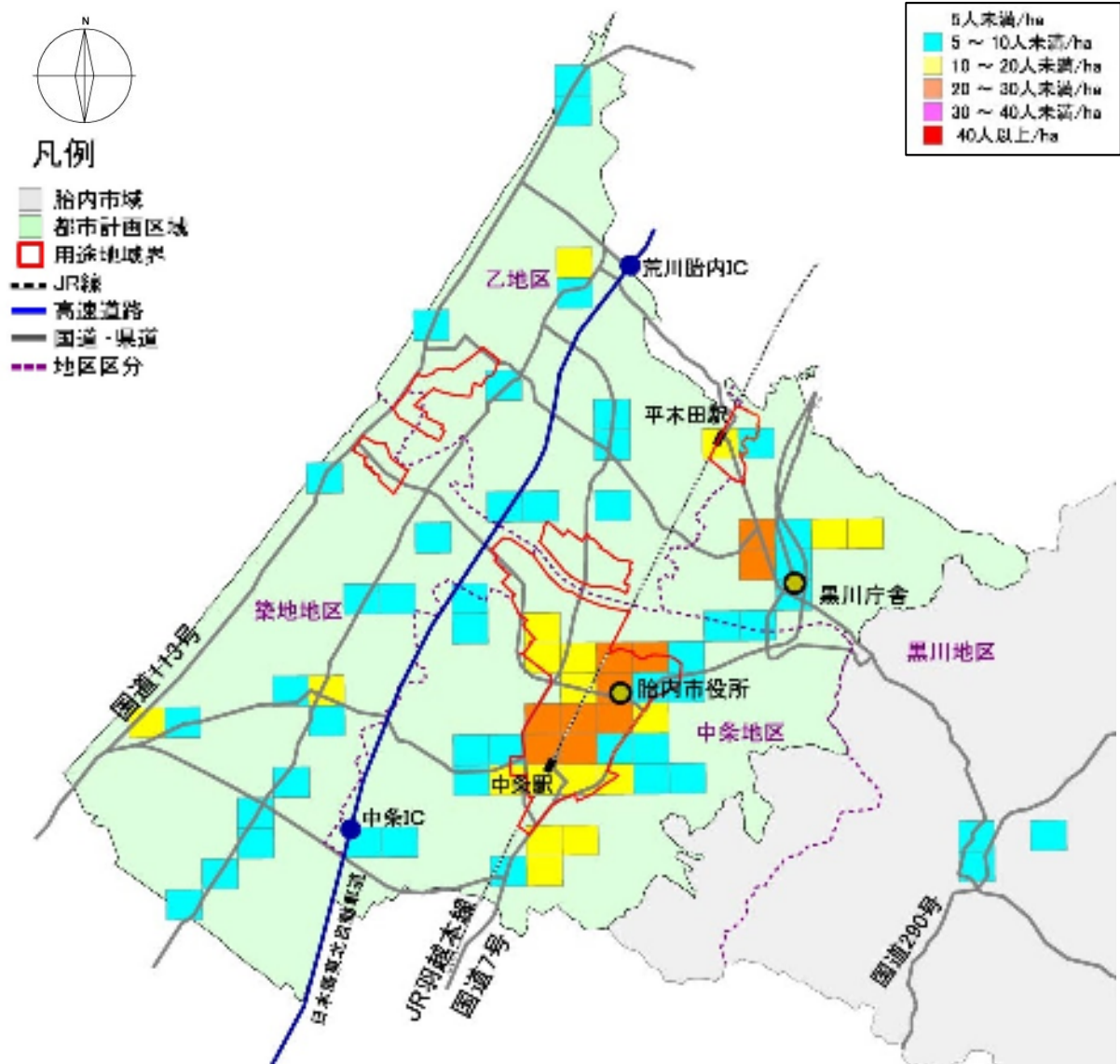


図3-1-3 2040年（平成52年）の地域別将来人口密度（500mメッシュ）

※）国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した方法を用いて地域別の数値を算出。

### 3-1-4 地域別の将来高齢者人口

#### ●市街地における高齢者の集積度合いが向上する見込み。

[データ解説]

- ・将来人口と同様に、2040年（平成52年）は、主に「中条地区の用途地域内とその周辺」に高齢者人口が集積していると予想され、今以上に市街地における高齢者人口の集積度合いが高まると予想されます。

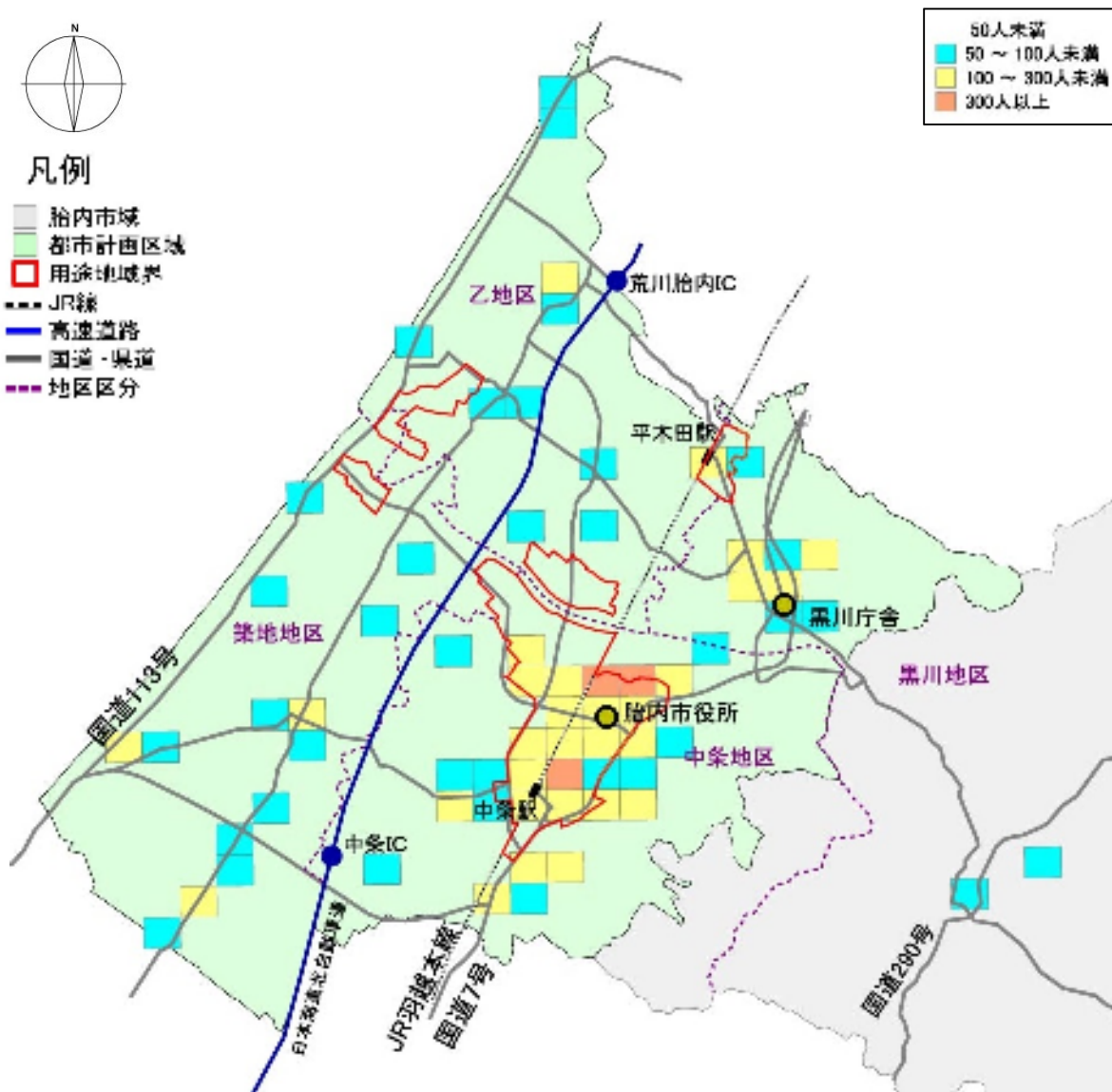


図3-1-4 2040年（平成52年）の地域別高齢者人口（500mメッシュ）

※）国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した方法を用いて地域別の数値を算出。

### 3-1-5 地域別の高齢者人口増減

#### ●市街地部の高齢者人口が大幅に増加する見込み。

[データ解説]

- ・ほぼ全ての地区で2040年（平成52年）にかけて高齢者人口が増加すると予想されており、特に、「中条地区の用途地域内とその周辺」では、今後大幅な増加が予測される地区が多く見られます。

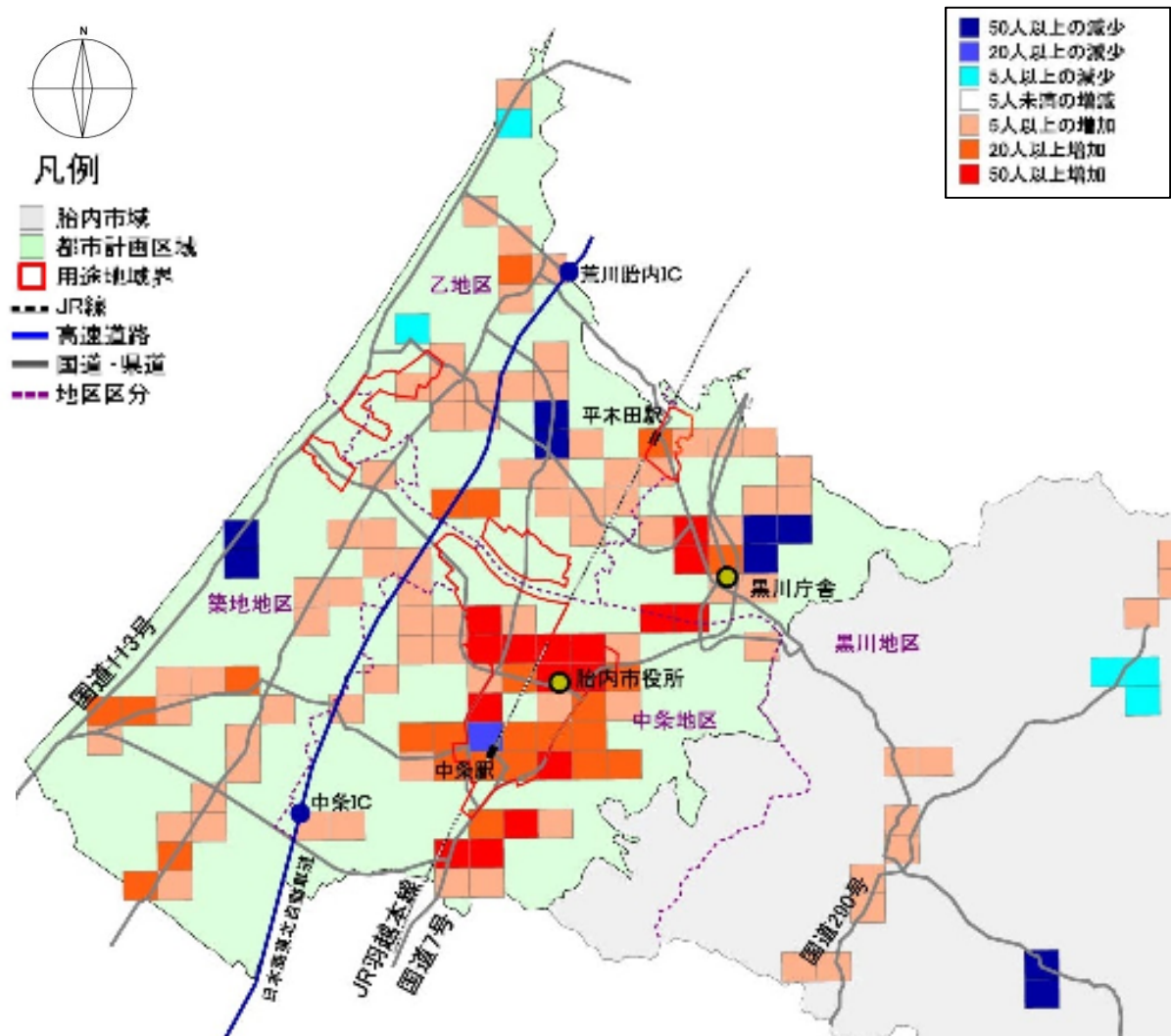


図3-1-5 2010年（平成22年） - 2040年（平成52年）の地域別高齢者人口増減（500mメッシュ）  
 ※）国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した方法を用いて地域別の数値を算出。

## 3-2 都市構造上の課題の分析

### 3-2-1 現状のまま推移した場合に将来発生することが懸念される問題

これまでに整理した現状分析や将来人口推計などの結果を踏まえると、対策を講じることなく現状のまま推移した場合、以下のような問題が将来発生することが懸念されます。

#### 問題① 一定の人口密度に支えられてきた生活サービス施設の利便性・持続可能性が低下

- ・中条地区の用途地域内や黒川地区の市街地は、周辺地域と比べて人口の集積度合いが高く、また、中条地区には多くの都市機能が集積するなど、胎内市の都市機能・居住機能を維持していく上で重要な地区となっていますが、対策を講じることなく現状のまま推移した場合、今後大幅に人口が減少すると予想されます。
- ・このまま人口が減少した場合、一定の人口密度に支えられてきた生活サービスの提供が将来困難になりかねないことから、生活サービス施設の利便性・持続可能性が低下することが懸念されます。

#### 問題② 市街地の空洞化により、まちの賑わいや防犯性が低下

- ・中条地区の用途地域内や黒川地区の市街地は、今後大幅な人口減少が予想されていることから、市街地において店舗や住宅の空き家化・空き地化が進行するなど、市街地の空洞化が進むものと予想されます。
- ・空き家や空き地の増加は、治安の悪化や拠点機能の脆弱化を招くことから、市街地の空洞化による賑わいの低下、防犯性の低下が懸念されます。

#### 問題③ 公共交通のサービス水準の維持、向上の持続性

- ・公共交通は、路線バスの運行エリアが少なく、運行回数も低頻度なサービス水準が低い状況となっていますが、路線バスに代わる公共交通機関として、デマンドタクシー「のれんす号」が運行されています。
- ・市民の通勤・通学の利便性向上等のため、広域交通ネットワークへのアクセス向上が必要です。
- ・また、今後も厳しい財政状況が予想される中、公共交通に係る国庫補助の減額等が予想されます。
- ・以上のことから、公共交通のサービス水準の維持、向上の継続性の確保が懸念されます。

#### 問題④ 防災リスクの高いエリアに相当数の人口が居住

- ・中条地区の用途地域内は、人口の集積度合いが高くなっていますが、当該エリアの北側の大部分は、胎内川等が氾濫した場合の浸水想定区域に指定されていることから、人口減少下にもかかわらず、将来においても相当数の人口が防災リスクの高いエリアに居住することが懸念されます。

#### 問題⑤ 税収が低下する一方で、都市インフラの老朽化対応のための投資的経費が増大

- ・中条地区の用途地域など、市街地が形成されているエリアは、比較的地価が高い状況ですが、今後このような市街地エリアにおいて人口減少や都市機能の撤退が進むと地価の低下が懸念されます。
- ・自主財源比率は、経年的に減少傾向となっており、今後の人口減少等により、将来的に自主財源確保がさらに困難になることが懸念されます。
- ・今後の高齢化の進展により、さらなる民生費の増加が見込まれるとともに、都市インフラの老朽化対応のための投資的経費の増加も見込まれることから、将来的には財政状況の悪化が懸念されます。

### 3-2-2 都市構造上の課題

対策を講じることなく現状のまま推移した場合に将来発生することが懸念される問題を踏まえ、人口減少下にあっても市民生活、都市活動や財政運営の持続性を確保していくための課題を整理します。

